

閉会中の活動報告

産業建設委員会

行政視察

◎京都府京都市「景観政策による歴史的な町並み進出に対する規制について」

- ・京都市は以前より世界に誇ることでできる豊かな自然と数多くの歴史的資産や風情ある町並みを保全するために先進的な取組を進めている。京都市を訪れる観光客は令和6年、5,600万人でそのうち外国人は1,000万人を超えており、京都の歴史的景観を保全する取組は国内外から高い評価を得ている。
- ・景観法の施行を受け、京都市では市民とともに歴史都市・京都の優れた景観を守り、育て、つくり、そしてこれらを活かしていくため、これまでの京都の景観に関する制度や取組等を盛り込んだ景観づくりに関する総合的な計画として平成17年12月に京都市景観計画を策定して以降、政策の充実とともに改訂し、景観保全の取組を進めている。
- ・高山市においても、京都市と同じように自然景観や、歴史的景観、また、町並みといった優れた景観を継承していくことはわれわれにとって重要な責務であり、京都市の取組を参考に今後の景観保全施策に活かしたい。



京都府京都市

◎福岡県柳川市「地域DMO・持続可能な観光施策について」

- ・柳川市は、「住んでよし、訪れてよし、働いてよし」三方よしの持続可能な観光まちづくりを実現することを目的として、令和6年3月「柳川観光2025指針」を策定した。令和元年に「第2次柳川市観光振興計画（2019－2028）」を策定したが、令和元年度末より新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、柳川市の観光も大きな打撃を受けるとともに、観光客の動向やトレンドが大きく変化したため、新たに検討し策定されている。
- ・高山市においても広域性といった面での課題はあるが、広域性を地域資源として捉え各支所地域においても、住んでよし・訪れてよし・働いてよしの仕組みを地域住民とともに構築し、観光施策に対する意識を醸成することで、地域資源の掘り起こしから愛着の醸成、さらには持続可能な高山市全体のあるべき姿が導き示される切り口としたい。

◎熊本県山鹿市「農村RMOの取組について」

- ・山鹿市は農用地の保全・地域資源の活用・生活支援を包摂し、地域課題の解決に向けた取組として注目を集めている農村型地域運営組織（RMO）を設置している。
- ・福祉はRMOより大きな規模の方がやりやすいため、農地保全と生活支援は分離して考えた方が現実的との示唆であった。RMOは特技がある人が集まることでより多機能的となり、コミュニティや人を健康にしていく事業であるとともに、人がその地域に住む仕組みづくりであり、集落ごとの個性が尊重されることが重要であることを認識した。



熊本県山鹿市